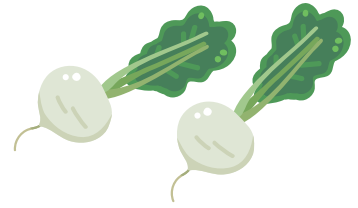


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

短期間で収穫できる 定番のカブ(小カブ)



スーパーなどでよく目にする小カブは、生育日数が30日から50日と短く簡単に栽培できます。カブは日本で古くから栽培されている野菜で、地方品種がたくさんあります。京都府の聖護院カブのように白くて大きなもの、滋賀県の日野菜カブのように地上部が赤く地下部が白いものなど、変わった品種もたくさんあります。いろいろな品種を栽培してみるのもよいでしょう。

図1 作型目安

カブ	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春播き	▲	—	▲	■	■	■				
秋播き						▲	—	▲	■	■

▲ 播種 ■ 収穫

栽培の ポイント

- 土の乾燥・過湿の差が激しいと裂根しやすくなるので、よい土づくりを心がけましょう。
- 防虫ネット(寒冷紗)でトンネル栽培をすると害虫の侵入を予防できます。(種播きから収穫期までトンネルを外すことなく栽培を続けることができます)。
- 小カブは収穫時期が遅れると「す」が入ったり、裂根したりすることがありますので、大きめのものから間引くように収穫しましょう。

おすすめ 品種

- 耐病ひかり:ウイルス病に強く栽培しやすい品種です。年間を通じて栽培が可能な万能品種です。
- あやめ雪:紫白のコントラストが特徴です。裂根や変形が少なく、甘みが強く食味が良い品種です。
- たかね:極早生で耐暑性が強い品種です。「す」入りや裂根が少ないです。
- スワン:小カブから中・大カブまで随時収穫ができる品種です。やわらかく漬物やサラダに適しています。

種まき : (プランターの場合)

- プランター栽培の場合では、JAの元肥入り培養土「花と野菜の有機培養土」や「こんな土が欲しかった」の使用がおすすめです。
- 長型のプランターの場合は2列播きになるように、板切れで深さ1 $\frac{1}{2}$ 寸の溝をつけます。
- 種の間隔を1~2 $\frac{1}{2}$ 寸に播き付け、1 $\frac{1}{2}$ 寸の厚さに覆土をして、静かにたっぷりと水をかけます。種が細かいので、重なり合って厚播きにならないように注意します。

(畑の場合)

- 種を播く2~3週間前に完熟堆肥2 $\frac{1}{2}$ kg/m²、苦土石灰100g/m²を施してよく耕します。1週間前には化成肥料(畑作名人N-P-K=13-13-13など)100g/m²を施します。
- 畝幅60 $\frac{1}{2}$ cm、畝高10~20 $\frac{1}{2}$ cm、2条または3条のすじ播きにします。また、ベッド播きでは、板切れで深さ1 $\frac{1}{2}$ 寸の横溝を15 $\frac{1}{2}$ cm間隔でつけ、1~2 $\frac{1}{2}$ cm間隔に種を播き、畝の高さと同じくらいになるように土をかけ、軽く押さえます。

間引き : 4~5日ほどで発芽するので、混み合ったところを間引きます。2回目の間引きは本葉2~4枚の頃に、3回目は本葉5~7枚の頃に行い、最終的に株間が5~10 $\frac{1}{2}$ cmになるようにします。間引く時に葉が折れやすいので、残す株を傷めないように丁寧に扱ってください。間引き菜は捨てずに食べることができます。

追肥 : 3回目の間引きをした後、追肥と中耕をします。化成肥料(畑作名人などN-P-K=13-13-13)30~50g/m²を畝の肩と条間にまいて土と混ぜ(中耕)、根元に軽く土寄せします。

収穫 : 収穫は、種播き後1カ月前後(春播きは50日前後)で、根元の直径が5~6 $\frac{1}{2}$ cmで行うことが多いですが、収穫適期は品種によって異なりますので確認しながら収穫して下さい。根が肥大したのから順次、葉の付け根を持って収穫しましょう。

病害虫 : 根を食害するネキリムシ、若い葉につきやすいアブラムシ、葉を食害するカブラハバチの幼虫、アオムシ、ヨトウムシなどが発生します。幼苗期の不織布ベタ掛け、収穫期までの防虫ネットのトンネル掛けが有効です。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。